

平成 30 年度 研究計画書

Research Plan FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授
氏名 Name	大津智彦
専門分野 Academic Field	英語学

平成 30 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2018 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	英語統語法の歴史的発達				
研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>久野暁・高見健一 (2017)によると、動詞 promise を用いた(1a)のような構文について、2000 年以前はこれを記載する英和辞典、英英辞典が多くあったが、近年では記載しない辞典が増えてきているという。また、記載があったとしても、(1a)のパターンを《非標準》とする辞典や、それを容認しない人がいることを理由に、(1b)のパターンの使用を勧める辞典が存在するとしている。ちなみに同書が引用するネイティブスピーカーへのふたつの聞き取り調査では、(1a)を容認する人はともに約 4 割である。</p> <p>(1) a. Sam promised me to get some food. b. Sam promised me that he would get some food.</p> <p>今年度の研究では、(1a)の構文をその初出時から掘り起こし、(1b)との競合を含めて歴史的に辿りたい。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	英語学				
キーワード Keywords*2	英語史	近代英語	現代英語	コーパス	